

# 感染症発生動向調査委員会報告 1月

## 今月のトピックス

- インフルエンザは警報の水準を超え、集団かぜの報告が急増。
- レジオネラ症の報告が引き続き多く、死亡例の報告もあり。
- 水痘の報告が例年より多い。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

### 平成 20 及び 21 年 週 - 月日対照表

第 52 週	12 月 22 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 ~ 25 日

平成 20 年 12 月 22 日から平成 21 年 1 月 25 日まで(平成 20 年第 52 週から平成 21 年第 4 週まで。ただし、性感染症については平成 20 年 12 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 全数把握の対象

#### < レジオネラ症 >

2009 年 1 月は 29 日現在で 5 例の報告がありました。

2008 年の累計報告数は 32 例(うち 31 例は肺炎型)と、これまでで最も多い報告数となっています。32 例の感染経路の内訳は、水系感染 10 例(うち温泉が疑われるもの 7 例)、塵埃感染 3 例、不明 19 例でした。

#### レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	891
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	58
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	32

全国でも、2008 年の累計報告数は 891 例と、2007 年の 665 例を大きく上回っています。(表参照)

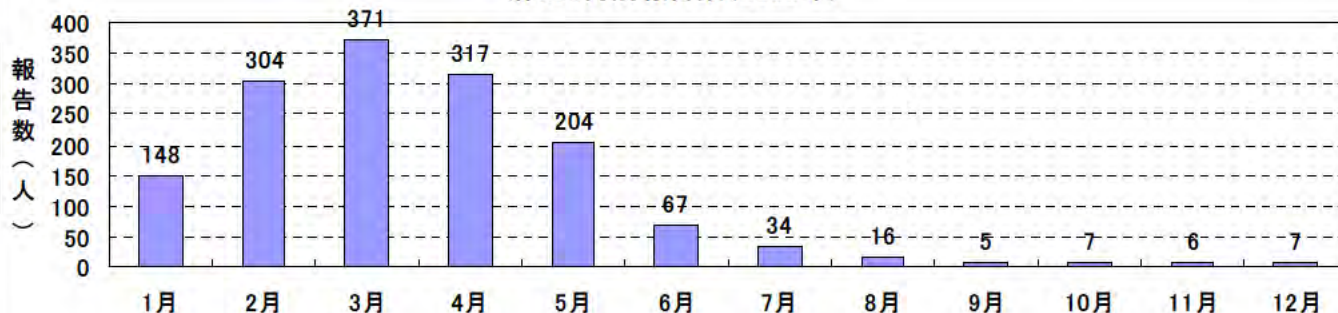
### <麻疹>

2008年から感染症法における5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

2009年1月は29日現在で6例の報告がありました。

横浜市における2008年の累計報告数は1486例で、全国の報告数11008例の13.5%でした。年齢別では、10代(50.4%)が多く、予防接種前の0歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の48.5%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数(2008年)



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

横浜市の緊急対策は2009年3月31日で終了します。1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況」

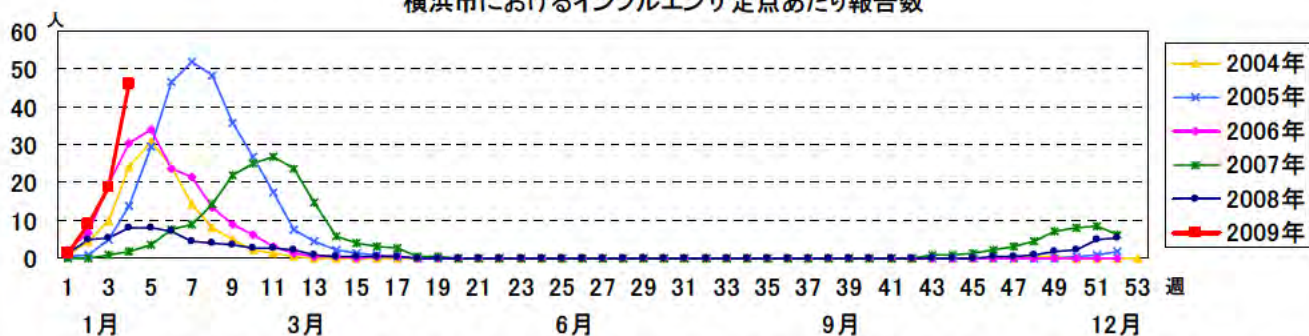
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

### 定点把握の対象

#### <インフルエンザ>

今シーズンは、過去5年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週に流行の目安となる「定点あたり報告数1.0」を超え、2009年第3週に18.74、第4週には45.93と警報水準の「30」を超えました。行政区別では、磯子区(65.86)、泉区(65.29)、都筑区(62.63)、緑区(62.50)、瀬谷区(61.17)、神奈川区(52.63)の順で多く報告されており、西区、中区以外の区は警報水準を超えています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は50.96、川崎市は39.60、全国は37.45でした。

横浜市におけるインフルエンザ定点あたり報告数



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第4週にA型5145件、B型320件、A・B共に陽性10件の報告がありました。また、2008年第47週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて69件あり、その内訳はAH1(ソ連型)37件(54%)、AH3(香港型)23件(33%)、B型9件(13%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年1月24日までに施設閉鎖4施設(4施設)、学年閉鎖3施設(3学年)、学級閉鎖31施設(32学級)の報告がありました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

#### <RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られますが、昨年は立ち上がり早く、第37週から増加の兆しが見られ、第47週に定点あたり0.97とピークとなり、その後減少し、2009年第4週は0.10でした。行政区別では中区(3.00)が多く、金沢区、港南区からも報告があります。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.06、川崎市は0.16、全国は0.21でした。

#### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年未年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第4週は1.49でした。行政区別では港北区(5.14)が高く、次いで緑区(3.00)、保土ヶ谷区(2.00)となっています。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.14、川崎市は1.53、全国は2.06でした。

#### <感染性胃腸炎>

昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第4週は6.21で例年並みの水準です。行政区別では金沢区(9.50)、戸塚区(9.33)、港北区(9.29)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は7.68、川崎市は10.06と、どちらも横浜市より高い値です。全国は8.58でした。

#### <水痘>

例年、年未年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し第4週は2.30となりましたが、今後の動向に注意が必要です。行政区別では泉区(5.25)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.15、川崎市は1.78、全国は1.88でした。

#### <性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

12月は、11月に比べて全体としては横ばいですが、女性の性器ヘルペスウイルス感染症がやや減少しました。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例と、11月に比べて減少しています。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### <ウイルス検査>

2009年1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点57件(鼻咽頭ぬぐい液54件、糞便3件)、内科定点18件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(結膜ぬぐい液)、基幹定点8件(鼻咽頭ぬぐい液3件、血清3件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎37人、胃腸炎4人、発熱のみ11人、発疹2人、関節痛1人、腫脹2人、内科定点は関節痛11人、気道炎3人、発熱のみ3人、胃腸炎1人、眼科定点は、流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザウイルス2人、脳炎1人、髄膜炎1人でした。

2月10日現在、小児科定点では気道炎患者9人、発熱のみの患者4人、関節痛1人からインフルエンザウイルスAH1型(以下AH1型)、気道炎患者5人、発熱のみの患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、気道炎患者3人、発熱のみの患者1人からインフルエンザウイルスB型(以下B型)、気道炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)が分離され、内科定点では、関節炎患者4人、気道炎患者3人からAH1型、関節炎患者2人からAH3型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス2型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者11人、発熱のみの患者2人、胃腸炎から1人からAH1型、気道炎患者2人からAH3型、発熱のみの患者1人からはAH3型とRSウイルス重複して検出されました。また、発疹患者1人からはエコーウイルス3型、胃腸炎患者2人からノロウイルスG2型が検出されました。内科定点は関節炎患者1人と発熱のみ患者1人からAH1型、別の気道炎患者1人からRSウイルスが検出されました。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### <細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は6件で検出されませんでした。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は8件でA群溶血性レンサ球菌が5件検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課 ウイルス担当・細菌担当 】